

協伸商会穀物レポート [KKR] Vol. 068

(2023/24年度 USDA米国農務省 3月8日発表)

① 世界の今年度穀物/大豆生産は順調で市場価格は底値を探る展開、但し中国/産地動向による価格上昇リスクは常に潜在

年明け以降、世界の穀物相場は順調な生産と潤沢な期末在庫状況を背景に底値を探る展開が続いている。3月の穀物価格は下記に示す通り小麦\$5.60/bu(前年同月比▼\$1.36)、とうもろこし\$4.12(同▼\$2.33)、大豆\$11.43(同▼\$3.88)と大幅に低下。一方、コメはインドの輸出規制やインドネシアの輸入増等により逆行高で\$639/㏍(同△\$150)まで高騰し対照的な動き。ただ下記に示す通り穀物在庫の約6割を中国が占有し、世界消費も堅調なことから、一旦産地動向が不安になれば価格は大きく上昇するリスクが潜在している。

② 米国の来年度(24/25年度)作付/生産見通しは大豆が世界的需要拡大とバイオディーゼル転用を受け拡大が顕著

USDAは2月15-16日に恒例の「農業アウトLOOKフォーラム」を開催し来年度の作付面積予想を発表。これによると小麦は1,902万ha(前年比▼5.2%)/とうもろこし3,683万ha(同▼3.8%)/大豆3,542万ha(同△4.7%)。生産量は其々5,171万㏍(△4.9%)/3億8,203万㏍(▼2.0%)/大豆1億2,261万㏍(△8.2%)と大豆の生産拡大が顕著な結果となった。これは国内外の堅調な需要によるが、特に米国内ではとうもろこし⇒エタロール(生産の1/3転用)に続き大豆の「バイオディーゼル」への転換(国内消費の1/2)が急速に進んでいる。

③ 一方、中国は昨年末「食糧安全保障法」を交付、「農業強国」建設に向け「千万プログラム」を策定

中国は14億人の巨大人口と食肉需要拡大を背景に世界最大の穀物消費国となり国内生産では間に合わず今や世界最大の穀物輸入大国(大豆1億㏍/とうもろこし2,300万㏍/小麦1,200万㏍)でもある。この法案は全11章68条からなるが中国のアキレス腱である農業/農村問題解消の為「千村展示、万村整備」プログラムでその環境整備と近代化を目指し、主要食糧である小麦/コメ/とうもろこし/大豆/雑穀等の食糧生産能力を5千万㏍拡大し6.5億㏍以上確保/耕地面積1.2億ha維持し「農業強国」を建設するとしている。しかし中国は既に穀物輸入量は約1.5億㏍、食肉消費量8,800万㏍/輸入量も約480万㏍(豚200/牛166/家禽類80万㏍)と世界最大でありその道のりは厳しい。

1、世界穀物需給の概要(大豆除く)

① 生産量:	2,809百万㏍ (前年比2.2%)	増 ↑、前月比0.0%	➡
② 消費量:	2,814百万㏍ (前年比1.8%)	増 ↑、前月比0.1%	増 ↑
③ 貿易量:	508百万㏍ (前年比2.7%)	増 ↑、前月比0.9%	増 ↑

2、小麦

① 生産量:	787百万㏍ (前年比0.3%)	減 ↓、前月比0.1%	増 ↑
② 消費量:	799百万㏍ (前年比1.0%)	増 ↑、前月比0.2%	増 ↑
③ 輸出量:	212百万㏍ (前年比3.7%)	減 ↓、前月比0.7%	増 ↑
⑤ 在庫量:	259百万㏍ (前年比4.5%)	減 ↓、前月比0.2%	減 ↓) / (在庫率 32%) うち中国132百万㏍、占有率51%
④ 価格:	\$5.60/Bu (前年\$6.96/Bu / 前月\$6.00/Bu) と前月比\$0.40 下落。		
⑤ 概況:	生産/消費量とも前年比微減しているが其々 <u>8億㏍近い数量を維持</u> しており需給は底堅い。輸出量も <u>大台の2億㏍</u> を超える見通しであり物流は活発である。在庫量は前年比若干減少しているが <u>在庫率は32.4%と高く</u> 価格は弱含んでいる。		

3、とうもろこし

① 生産量:	1,230百万㏍ (前年比6.3%)	増 ↑、前月比0.2%	減 ↓
② 消費量:	1,212百万㏍ (前年比3.9%)	増 ↑、前月比0.1%	増 ↑
③ 輸出量:	202百万㏍ (前年比12.3%)	増 ↑、前月比0.7%	増 ↑
④ 在庫量:	320百万㏍ (前年比6.0%)	増 ↑、前月比0.8%	減 ↓) / (在庫率 26%) うち中国212百万㏍、占有率66%
⑤ 価格:	\$4.12/Bu (前年\$6.45/Bu / 前月\$4.43/Bu) と前月比\$0.31 下落。		
⑥ 概況:	生産/消費量とも不作の前年より大きく拡大しており其々 <u>12億㏍を維持</u> している。輸出量も米国の生産が回復したことにより前年比約35百万㏍増加し <u>2億㏍の大台に乗せる見通し</u> である。期末在庫量は生産が消費を上回っている為3.2億㏍迄膨らみ在庫率は26.4%と前年より0.5%増加。価格はこのような状況を受け弱含み <u>\$4台をようやく維持</u> している。		

4、大豆

① 生産量:	397百万㏍ (前年比5.0%)	増 ↑、前月比0.3%	減 ↓
② 消費量:	382百万㏍ (前年比4.4%)	増 ↑、前月比0.3%	減 ↓
③ 輸出量:	174百万㏍ (前年比1.0%)	増 ↑、前月比1.8%	増 ↑
④ 在庫量:	114百万㏍ (前年比11.9%)	増 ↑、前月比1.5%	減 ↓) / (在庫率 30%) うちBRA33/ARG26百万㏍
⑤ 価格:	\$11.43/Bu (前年\$15.31/Bu / 前月\$11.89/Bu) と前月比\$0.46 下落。		
⑥ 概況:	生産量はBRAサンパウロ州の乾燥等により前月より百万㏍程減少したが <u>全体的には4億㏍に近く史上最高見通し</u> は変わらず。貿易量は <u>中国輸入が105百万㏍、同時にBRA輸出も103百万㏍</u> まで拡大。価格は在庫量増の為若干弱含んでいる。		

世界の穀物・大豆等の需給

2024年3月8日
米国農務省発表： 単位 1 0 0 万トン

主要穀物世界の需給							
			生産量	総供給量	貿易量	総使用量	期末在庫量
全穀物	2021/22		2,794	3,589	513	2,795	794
	2022/23		2,750	3,544	495	2,764	780
	2023/24	2月	2,810	3,587	503	2,812	775
	2023/24	3月	2,809	3,589	508	2,814	775
小麦	2021/22		780	1,064	203	791	273
	2022/23		789	1,062	220	791	271
	2023/24	2月	786	1,057	211	798	259
	2023/24	3月	787	1,058	212	799	259
粗粒穀物 (とうもろこし等) 注1	2021/22		1,501	1,824	254	1,486	338
	2022/23		1,446	1,784	220	1,453	331
	2023/24	2月	1,510	1,840	241	1,492	348
	2023/24	3月	1,507	1,839	243	1,493	346
米	2021/22		513	701	57	518	183
	2022/23		515	697	54	520	177
	2023/24	2月	514	690	52	523	167
	2023/24	3月	515	693	53	523	170
大豆	2021/22		360	459	154	365	94
	2022/23		378	472	172	370	102
	2023/24	2月	398	502	171	383	119
	2023/24	3月	397	499	174	382	117

世界のとうもろこし需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	2月	300.25	1,232.57	189.82	1,210.76	200.82	322.06
	3月	301.62	1,230.24	189.48	1,212.24	202.27	319.63
アメリカ	2月	34.55	389.69	0.64	316.37	53.34	55.17
	3月	34.55	389.69	0.64	316.37	53.34	55.17
アルゼンチン	2月	1.11	55.00	0.02	14.10	41.00	1.03
	3月	1.11	56.00	0.02	14.10	42.00	1.03
ブラジル	2月	10.27	124.00	1.20	77.50	52.00	5.97
	3月	11.47	124.00	1.20	78.50	52.00	6.17
EU	2月	7.23	60.10	23.00	78.90	4.20	7.23
	3月	7.23	60.10	22.00	77.90	4.20	7.23
日本	2月	1.30	0.01	15.50	15.50	0.00	1.31
	3月	1.30	0.01	15.50	15.50	0.00	1.31
中国	2月	206.04	288.84	23.00	306.00	0.02	211.86
	3月	206.04	288.84	23.00	306.00	0.02	211.86
ロシア	2月	0.91	17.00	0.05	11.60	5.30	1.06
	3月	0.91	16.60	0.05	11.20	5.30	1.06
ウクライナ	2月	2.80	30.50	0.02	5.00	23.00	5.32
	3月	2.80	29.50	0.02	5.00	24.50	2.82

世界の大豆需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	2月	103.57	398.21	167.85	383.03	170.57	116.03
	3月	102.15	396.85	170.78	381.90	173.61	114.27
アメリカ	2月	7.19	113.34	0.82	65.97	46.81	8.57
	3月	7.19	113.34	0.82	65.97	46.81	8.57
アルゼンチン	2月	17.21	50.00	6.10	42.75	4.60	25.96
	3月	17.21	50.00	6.10	42.75	4.60	25.96
ブラジル	2月	37.35	156.00	0.45	57.50	100.00	36.30
	3月	37.35	155.00	0.45	56.75	103.00	33.05
中国	2月	33.79	20.84	102.00	120.50	0.10	36.03
	3月	32.34	20.84	105.00	120.50	0.10	37.58
EU	2月	1.22	3.06	13.80	16.49	0.30	1.29
	3月	1.26	3.06	13.80	16.49	0.30	1.33

世界の小麦需給							
		期首在庫	生産量	輸入量	国内計	輸出量	期末在庫量
世界計	2月	271.21	785.74	209.89	797.52	210.69	259.44
	3月	271.10	786.70	211.21	798.98	212.13	258.83
アメリカ	2月	15.50	49.31	3.95	31.14	19.73	17.90
	3月	15.50	49.31	3.95	31.14	19.32	18.30
アルゼンチン	2月	4.07	15.50	0.01	6.70	10.50	2.38
	3月	4.07	15.90	0.05	6.70	10.50	2.82
オーストラリア	2月	4.37	25.50	0.20	7.00	19.50	3.57
	3月	4.37	26.00	0.20	7.00	20.00	3.57
カナダ	2月	3.66	31.95	0.60	8.70	24.00	3.51
	3月	3.51	31.95	0.60	8.70	24.00	3.37
EU	2月	16.52	134.00	12.00	110.50	36.50	15.52
	3月	16.52	133.65	13.00	111.50	36.50	15.17
中国	2月	138.82	136.59	12.00	153.50	0.90	133.01
	3月	138.82	136.59	11.00	153.50	0.90	132.01
インド	2月	9.50	110.55	0.25	111.00	0.30	9.00
	3月	9.50	110.55	0.25	111.00	0.30	9.00
ロシア	2月	14.64	91.00	0.30	43.00	51.00	11.94
	3月	14.64	91.50	0.30	43.00	51.00	12.44
ウクライナ	2月	3.50	23.40	0.08	8.00	15.00	3.98
	3月	3.50	23.40	0.08	7.70	16.00	3.28

脚注1：粗粒穀物はとうもろこし、マイロ、大麦、燕麦、ライ麦等の計で約80%がとうもろこしである。
脚注2：年度は穀物年度。地域・作物により異なる。例：アメリカ産とうもろこし、大豆：9月～8月。

世界主要国の農業と穀物需給の行方…ロシア(6)

❶ ロシアの穀物生産量はこのシリーズ(2)でも触れてきた通り2010年の60百万トンをボトムに順調に拡大を続け14年以降連続して1億トンを超え17年には過去最高の136百万トンと10年比2.3倍増とし、その後も安定的に110-130百万トンの実績を残している。更に今年度の生産見通しは小麦が91百万トンの豊作、穀物全体で17年を超える可能性が有る。今回は18年に公表されたロシアの「2035年までの穀物部門発展戦略」を元にこの間の穀物生産/輸出拡大の背景を検証したい。

❷ [表1]に示したこの「発展戦略」は2018年実績をベースに35年までの穀物生産/輸出等の「基本シナリオ」と「楽観シナリオ」を描いているが、見ての通り今年度生産量(135百万トン)は35年を待たずに基本シナリオ140百万トンに迫り、輸出数量(62百万トン)は基本シナリオを大幅に超え楽観シナリオの64百万トンに迫る見通しである。この極めて順調な拡大の要因は次のことが考えられる。① 2014年クリミア併合/欧米制裁による歴史的なルーブル安(\$1=33 R⇒100R)⇒輸出競争力増大 ② 世界的な小麦消費量拡大(10年645⇒今年度795百万トン/1.5億トン増) ③ 機械化の進展と肥料投入量増大による単収増 ④ 温暖化等による播種面積拡大等が挙げられるが、総括的に言えば[表1]にある通り結果として国内的には単収増と播種面積増による生産拡大。国際的にはルーブル安と消費増による輸出拡大が国内生産を更に牽引していると言える。なお、収穫量増加の寄与率は単収増64%/面積増36%と試算されている。

❸ ロシアの穀物生産は約70%が小麦で、[表2]は小麦の今年度の世界全体の国別生産/輸出/輸入シェア見通しである。ロシアは全体生産量786百万トンに対し中国/EU/インドに次ぐ世界4位の11.6%(91百万トン)。輸出量は全体211百万トンに対し24.2%(51百万トン)と約1/4を占めEU/カナダ等を大きく上回り世界1位の座を確保している。要するにロシアは国内小麦消費量40百万トン(食用/飼料用ほぼ半々)を除けば全て輸出に向けられるという構図が見える。USDAによれば1月のロシアの小麦輸出価格は、港頭における過剰在庫状況から\$20下落し\$225/トンと主要小麦輸出6カ国では最安値となり輸出ドライブを増している。従来のロシアの小麦輸出先はエジプト/トルコの2カ国が約3割+その他の中東/アフリカ諸国であったが、近年はEU/豪州の輸出先であった地域にも拡大している。特に今年度(23.7-24.1)はアルジェリア向け162万トン(5.3%)/インドネシア向け118万トン(3.8%)と輸出拡大しその輸出先の構図も変わって来つつある。

❹ [表2]の小麦輸入国を見るとシェア5%前後は中国/EU等の数カ国のみ、全体の3/4は「その他」でありその消費地域は全世界広範に広がっている。一方、大豆は全輸入量の約60%(105/174百万トン)は中国、コメは生産/消費ともアジアに集中し貿易量は生産量の1割程度(53/515百万トン)とローカル性が高いのとは対照的である。(続く)

【表1】ロシアの2035年までの穀物部門発展戦略

出所：農林水産政策研究所

	2018年(実績)	2035年見通し			
		基本シナリオ	増加量	楽観シナリオ	増加量
穀物収穫量 (百万トン)	113.3	140.0	26.7	150.3	37.0
穀物輸出量 (百万トン)	54.9	55.9	1.0	63.6	8.7
穀物播種面積 (百万ha)	46.3	50.0	3.7	50.0	3.7
穀物平均単収 (トン/ha)	2.5	3.1	0.6	3.5	1.0
対穀物無機肥料総投入量 (有効成分換算・百万トン)	2.8	8.0	5.2	11.3	8.5
1ha当たり肥料投入量(kg)	60.5	160.0	99.5	226.0	165.5

【表2】2024年2月度 世界の小麦生産量/輸出量/輸入量

